



## 「環境白書」の発刊にあたって

三重県知事 鈴木英敬

豊かな自然環境を将来の世代に継承していくことが、私たちの世代に課せられた大きな責務であり、それを果たすためには、地球温暖化防止や生物多様性をはじめとする自然環境の保全など持続可能な社会づくりが不可欠です。

世界では、昨年11月から12月にかけてカタールドーハで開催された気候変動枠組条約第18回締約国会議(COP18)において、平成32(2020)年以降の新たな国際枠組みに関する平成27(2015)年までの合意に向けて議論がスタートするなど、地球規模の環境問題への取組が進められています。

一方、国内においても、平成23(2011)年に発生した東日本大震災や紀伊半島大水害などの自然災害により、自然の恐ろしさ、自然との共生のむずかしさを改めて自覚し、環境問題への意識がこれまでになく高まっているといえます。

本県では昨年度から「みえ県民カビジョン」をスタートさせ、県民の皆さん一人ひとりが自ら行動し、ともに支えあうことによって、「県民力による『協創』の三重づくり」を目指しています。県民の皆さん一人ひとりをはじめ、企業、地域の団体やNPOなど、さまざまな主体が支えあい、一体となって取り組むことで、地球温暖化や自然環境の保全などの環境問題の改善に向けて大きな一歩を踏み出せるのではないのでしょうか。

この白書は、三重県環境基本条例第10条に基づく年次報告として、平成24(2012)年度における三重県の環境の状況と、取組の結果を含めた三重県の環境保全に関する施策全般をとりまとめたものです。

本書を通じて、皆さんが今日の環境問題に対してご理解を深めていただき、皆さん自身が考え、主体的な行動を起こしていただくことを願って、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

平成25年11月